

レモネードを売る準備に取り組んでいる「高知レモスタ委員会」のメンバーら（高知市新屋敷1丁目の小高坂小学校）



## 小高坂小6年生グループ

### 9日 高知市でレモネード販売

高知市の小高坂小学校6年生のグループが、レモネードを売って出たもうけを小児がん治療のために寄付する「レモネードスタンド（レモスタ）」を6月9日、高知市内で開きます。店長の切詰颯大さん（11）には小児がんから回復した弟がおり、命の大切さに向き合った体験が活動の基になっています。

レモスタは、小児がんの治療法開発などを支援しようと、アメリカで2000年に始まった社会こうけん活動。日本でも近年、全国各地で行われています。

颯大さんの弟、虹葉さん（6）は1歳の時に血液のがんの一種「骨髄異形成症候群」と診断され、神戸市の病院に長期入院。颯大さんも病院に通い、がんとたたかう多くの子どもに出会いました。

幸い、虹葉さんはほかの人の「さい帯血」を体に入れる治療で回復しましたが、中には亡くなった子もいました。

「寄付が集まって治療がもつとできるようになり、小児がんが確実に治る病気になってほしい」。颯大さんは昨年、同級生ら

と「高知レモスタ委員会」と名付けたグループを立ち上げ、これまで5回、レモスタを開きました。

今回は、24都府県で行われる「全国一斉レモネードスタンド」に合わせ、6月9日午前10時～午後3時、高知市万々サニーマート中万々店前で販売します。レモネードとレモスタッシュの2種類あり、1杯200円。颯大さんは「いっぱい寄付を集めるために、いっぱい買ってください」と呼びかけています。（松田さやか）

★レモスタ委員会  
の続きはこちら

